

## 第6節 その他構内の立会調査

### 熊野荘給湯機器取設に伴う立会調査

調査地区 山口市熊野町3-21 熊野荘

調査期間 昭和61年1月31日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約7 m<sup>2</sup>

調査結果 熊野荘は山口市の市街地のほぼ中央、吉田構内の北約2.5kmに位置し、同建物の北約250mの障子岳南麓には、市街地の西半部を臨むように円墳の権現山古墳が所在する。工事内容は熊野荘北東隅の地域で、既設ガス管から枝管を分離し埋設するもので、その規模は幅50cm、現地表から約50cmの掘削を必要とするものである。熊野荘敷地部分の調査はこれまでまったくおこなわれておらず、埋蔵文化財に対する具体的な資料が皆無に近いことから、工事規模を勘案して土層の堆積状態の観察を主眼とした立会調査を実施することとした。

その結果、工事基底面まで造成時等の置土（攪乱土）の堆積が見られ、顕著な遺物包含層、遺構は検出されなかった。しかし、障子岳南麓では権現山古墳に対応する時期の集落跡は報告されておらず、同敷地部分での今後の調査が期待される。（河村）

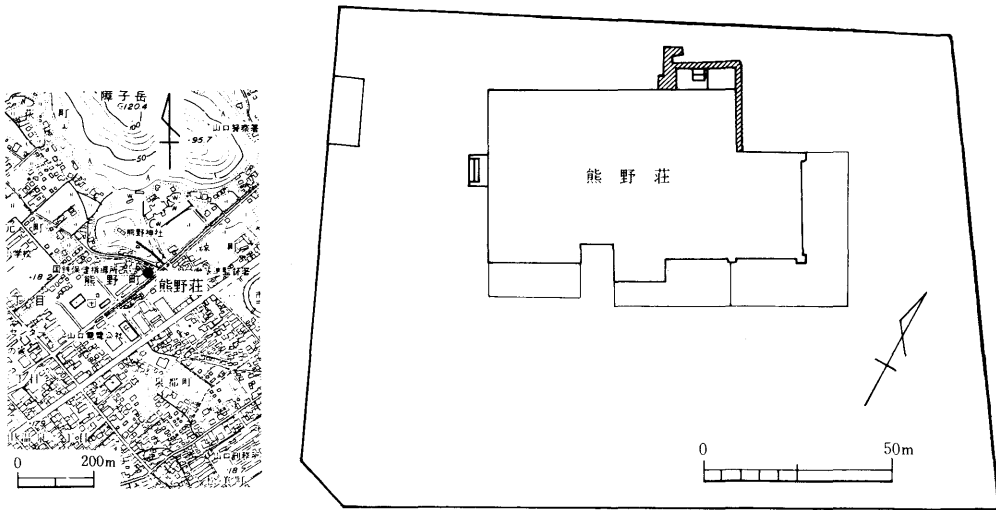


Fig. 52 調査区位置図